



もち餅を食べる 年中行事

年中行事を語るうえで、欠かせない食べ物が餅です。日本人は昔から、お供えとしてはもちろん、何かめでたいことがあるたびに餅を食べてきました。

1月1日	お正月	米の餅	
1月11日	鏡開き	米の餅	
1月15日	小正月 <small>古い暦では満月から満月を1カ月と考え満月の15日を月の頭としたことが由来。</small>	米の餅	
2月8日	事八日、事始め	米の餅	
3月3日	ひな祭り	米の餅(菱餅など)	
3月春分	春のお彼岸 <small>仏教で極楽浄土があるとされる真西に太陽が沈むため、ご先祖さまをしのび、感謝の思いを捧げるのにいい時期とされたのが始まり。</small>	米の餅(ぼた餅など)	
5月5日	端午の節句 <small>強い香りを持つ菖蒲を魔除けにした中国の風習が元。江戸時代に「菖蒲」が「勝負」と繋がり、男子の節句とされ、兜や武者人形をかざるようになった。</small>	米の餅(粽、柏餅など)	
9月9日	重陽の節句 <small>読み方は「ちょうよう」。強い香りで邪気を払い、不老長寿の力を持つ高貴な花とされた菊を、酒やお茶に入れて楽しめます。</small>	米・栗・きびの餅	
9月秋分	秋のお彼岸 <small>春のお彼岸同様、極楽浄土のある真西に太陽が沈む時期に、ご先祖さまをしのびます。仏教と日本の祖先崇拝が合わさった行事。</small>	米の餅(おはぎなど)	
9月十五夜	お月見 <small>十五夜の満月に、いもや豆などの秋の収穫に感謝を込めてお供えします。</small>	米の餅(お月見団子など)	
10月亥の日(旧暦)	亥の子 <small>旧暦10月の最初の亥の日に西日本を中心に行われる収穫のお祭り。東日本でも同様の年中行事、十日夜(とおかんや)があり、新暦11月におこなわれることも。</small>	米・そば・いもなどの餅(亥の子餅など)	
12月8日	事八日、事納め	米の餅	